



# Flash News

〈フラッシュニュース〉

三重大学

第44号

## 目次

- 「勢水丸」の代船建造の内示を受ける
- 三重大学で初めての「地震・津波避難訓練」を実施
- 再開発の進展について
- 三重大学東京フォーラム開催
- 学長補佐就任挨拶
- 三重大学教育学部が四日市市教育委員会と連携協力に関する協定締結
- 第1回バンゲアアクティビティ
- シンポジウム「海村・須賀利に学ぶものⅡ」
- 環境問題を考えるシンポジウム「レジ袋有料化」を開催
- 「平成18年度業務改善活動報告会」開催
- 三重大ピアサポート

## 「勢水丸」の代船建造の内示を受ける



三重大学の特色の一つである大学院生物資源学研究科附属練習船「勢水丸」の代船建造は、学長をはじめ関係各位のご尽力により、平成19年度、政府予算の内示を受けました。予算が成立すれば、代船建造に取りかかり平成21年1月に進水予定となります。勢水丸は、全国の国立大学で7校（近畿・中部圏の国立大学では本学のみ）が所有する練習船13隻の1隻として、各大学と協力しあって新しい時代の水産・海洋の教育と研究、社会貢献に活躍しています。今後、代船建造委員会（委員長：前川行幸生物資源学研究科教授）のもとで建造を進めていきます。

## 三重大学で初めての「地震・津波避難訓練」を実施

1月30日、本学で初めての標記訓練が1,200名の学生・教職員が参加し全学一斉に実施されました。熊野灘を震源とするマグニチュード8.7の地震が発生、当地域で震度6強の地震を観測、キャンパス内の建物が一部損壊、一部地域では地盤の液状化が発生、その後、伊勢湾沿岸に津波警報が発令されたと想定、11時40分の地震発生サイレンを受け、豊田学長を本部長とする災害対策本部が設置されました。トランシーバーを使って情報連絡体制を確保した後、津波警報発令に伴う避難指示の伝達訓練が行われるなど今回の避難訓練は、津波を想定して避難することに絞った訓練となりました。今後、本学危機管理マニュアルに則った学内の震災対応体制の検証と、本学構成員の地震防災意識啓発を目的に、様々な想定による訓練を継続して行っていく予定です。



## 再開発の進展について

フラッシュニュース第33号で「附属病院の再開発がスタート」することを掲載しましたが、当初の計画では完成まで17年を要する超長期工事のため、17年後の医療を予測することは極めて困難で具体的に設計図を書くことは難しいことから工期を短縮する努力が学長をはじめ多くの人によりなされました。その結果、6年短縮することができ、病棟は平成23年の夏に完成予定となりました。4年半後には ①患者中心の病院（心和む病院）②情報システムによる最先端医療のできる病院（やりがいのある病院）③次世代の人材育成のできる病院（求められる病院）④職場環境に優れた病院（働きやすい病院）⑤立地条件を生かした病院（海の見える病院）が出来上がります。



## 三重大学東京フォーラム開催

12月15日、本学の東京オフィスが設置されているコラボ産学官において、「三重大学東京フォーラム」を開催しました。首都圏在住の同窓生や企業の方々120名を越える出席者を迎え、盛大に行われました。フォーラムは豊田学長より挨拶と「環境の変化を乗り切るために三重大学は何をしようとしているのか？」と題した大学の現況が説明され、その後、(医)田中教授、(工)武田教授、(生)船岡教授の研究発表と亀岡副学長より国際研究部門の紹介がありました。独創性豊かな研究発表や大学の活発な活動の説明に対して、出席者から好評を博しました。引き続いて行われた交流会では同窓生同士の久しぶりの再会と、大学の最近の話題で盛り上がり、楽しいひとときとなりました。

## 学長補佐就任挨拶

『三重大学における教育、研究、国際交流、社会連携等を推進するための情報基盤とコンテンツ・広報整備に係わる業務の補佐、これが今回私に与えられた職務です。法人化第一期の折り返し地点である現在、当初の情報戦略と国際戦略に基づいて実施されてきた中期目標・中期計画の実施事項の点検・評価、残された期間内で達成すべき具体的な行動計画の策定、効率的・効果的な実施が求められています。これら要請に応えるために、関係部署と協力し学長補佐としての職務を果たす所存です。』



小林英雄学長補佐



野村剛彦学長補佐

『今回、私に与えられた職務は、平成19年度年度計画（教育）を策定することです。三重大学は、今、急ピッチで整備・改革が進んでいます。これを継承し、完遂するとともに、将来のさらなる発展につながる布石を打つこと。このことを心して、山田副学長（教育担当）の下で、教職員の皆様のご協力をいただき、職務を行っていきたくと考えています。』



奥村克純学長補佐

『平成19年3月31日までの任期で、研究関係の19年度の中期計画および業務目標の策定を補佐することが私の職務です。18年度までの実績報告に基づいて本学の研究関係の現状を知り、中期計画に照らして無理のない目標を策定したいと思います。この機会に三重大学における研究推進上の問題点を把握し、皆さまの研究環境が少しでもよくなること、研究意欲が湧くプランを考えていきたくと思います。』

## 三重大学教育学部が四日市市教育委員会と連携協力に関する協定締結

本学教育学部と四日市市教育委員会は、教員養成の充実および教職員の資質の向上、教育上の諸課題等への適切な対応、大学における教育・研究及び四日市市の教育の充実、発展を目指して、11月22日に相互連携協力協定書に調印いたしました。今後、三重大学教員が継続的に各学校を指導・助言することで学校全体の教員の指導力が着実に向上し、授業改革・改善が進むことが期待されます。また、四日市市教育委員会には、三重大学からの教育実習生を集中的に受け入れていただくなど相互に連携協力していきます。

## 第1回パンゲアアクティビティ

国際教育推進プラン（世話人：松岡 守・教育学部）（フラッシュニュース第39号参照）に伴う標記の活動が、抽選で選ばれた津市内の子ども達約20名を対象に1月13日、メディアホールで開催されました。パンゲアアクティビティとは、自己紹介記事などをパソコンに取り込み、国外を含む他地区の活動拠点と子ども同士の交流を行う活動です。外国との交流をする際の言葉の壁をなくすために、絵文字を使うのを特徴としています。本学学生、津市内のALT他が学習ボランティアにあたり、子ども達と国際色豊かな楽しい時間を共有しました。今後2月にも実施し、3月の韓国の子ども達とのリアルタイム交流に向けての準備が進められます。



## シンポジウム「海村・須賀利に学ぶものⅡ」

1月15日、標記シンポジウムと特別展「日本の小さな海村須賀利」・北出正之写真展「須賀利で見つけた宝物」（1月15-18日）が三翠ホールで開催されました。尾鷲市・海の博物館との相互友好協力協定に基づいて尾鷲市須賀利町で行われてきた総合調査（担当：石原義剛客員教授）の一環をなすもので、総合調査の成果を示す特別展をもとに、シンポジウムでは須賀利の特色と地域づくり、大学・博物館と地域の連携について、住民と大学・博物館・行政関係者などによる活発な意見交換が行われました。

## 環境問題を考えるシンポジウム「レジ袋有料化」を開催

環境ISO推進室・学生委員会および生協主催の標記シンポジウムが1月18日に本学メディアホールにて開催され、約100名の学内外の関係者や学生が参加しました。生協で使用されているレジ袋は、年間約25万枚で、ドラム缶約250個分の原油が使われ、年間約50万円-125万円相当のレジ袋がゴミとして処分されています。ISO14001認証取得を目指している本学において、生協でのレジ袋有料化はゴミ減量の有効なツールとなります。シンポジウムでは環境ISO推進室長より、昨年6月に実施したレジ袋有料化の試行結果やアンケート調査の結果報告がなされ、イオン（株）環境社会貢献部長からは、1月から京都で実施しているレジ袋有料化について発表がありました。本学生協で4月からレジ袋の有料化が実行されると、千葉大学に続き国立大学で2番目の取組となります。



## 「平成18年度業務改善活動報告会」開催

1月29日、本学が中期目標・計画に掲げる目標チャレンジ活動の一環として、一般職員による「平成18年度業務改善活動報告会」を開催しました。学長講話『継続は力なり』に続き、各部局推薦9グループの活動報告が行われ、役員等による審査の結果、工学部チーム「学生第一宣言!」、調達チーム「見えない壁を取り払おう!」、生物資源学部附属教育研究施設チーム「管理運営から農場経営に脱皮を図る」の3グループが「優秀賞」を受賞しました。

## 三重大ピアサポート

学生なんでも相談室では、今年度より「三重大ピアサポート」活動（毎週月・木曜日11:30-13:30）を行っています。これは、所定の研修を受けた三重大生（ピアサポーター）が、「よき仲間」「よき先輩（peer）」として同じ三重大生をサポートする活動のことです。学内施設の利用の仕方、友達関係や生活トラブルの解消法、各種レポートや試験対策等々の日常の困りごとについて、学生総合支援センターのバックアップの下、活動しています。詳細は、ホームページ（<http://campus.ab.mie-u.ac.jp/NEWHP/index.html>）をご覧ください。

## 投稿のお願い

各種事項（大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。

亀岡孝治 (vp@pre-info@mie-u.ac.jp) または 井上真理子 (mariko-i@ab.mie-u.ac.jp) まで。場合によっては、取材に向きます。

《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで (<http://www.mie-u.ac.jp>) ご覧いただけます。》 編集責任者 / 理事・副学長 渡邊悌爾